

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 14 日現在

機関番号：64303
 研究種目：若手研究（B）
 研究期間：2009 ～ 2011
 課題番号：21720155
 研究課題名（和文）シュメール語動詞接頭辞の形態論的研究－前三千年紀後半～二千年紀前半の資料分析
 研究課題名（英文）Morphological Analysis of Sumerian Verbal Prefixes

研究代表者
 森 若葉（MORI WAKAHA）
 総合地球環境学研究所・研究部・プロジェクト上級研究員
 研究者番号：80419457

研究成果の概要（和文）：

シュメール語の動詞は複雑な動詞接頭辞構造をもつことで知られている。本研究では、紀元前三千年紀半ばから紀元前二千年頃までのシュメール語資料、およびそれ以降に編集されたシュメール語文学作品を対象とし、シュメール語の動詞接頭辞間および接頭辞と動詞の関係について調査を行った。その結果、資料の時期、地域、種類によって、とりうる接頭辞の組み合わせや動詞に傾向が見られることがわかった。

研究成果の概要（英文）：

The Sumerian verb has a complicated prefix structure. I did research on Sumerian prefix chains in the Sumerian texts from the first half of the third millennium BC till the second millennium BC. The texts surveyed are royal inscriptions, economic texts, legal documents in the third millennium BC and literary texts in the second millennium BC. The results revealed that the combinations between prefixes or prefix and verbs tend to differ according to periods, areas or categories.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009 年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2010 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2011 年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	2,900,000	870,000	3,770,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学

キーワード：シュメール語、楔形文字学、動詞形態論、シュメール学

1. 研究開始当初の背景

シュメール語には、十以上の動詞接辞のス

ロットがあることが知られているが、その形式や意味機能は不明確なものが多い。研究上

のおおきな問題は、シュメール語文献の種類が、時期によって異なる点にある。前三千年紀の資料は、行政経済文書、裁判記録、王碑文などであるのにたいし、シュメール語が死語化したのちの前二千年紀の資料は、そのほとんどが神話や讃歌、叙事詩といった文学作品であり、両者のスタイルはおおきくことなっている。シュメール語の動詞接辞は、種類が多く、その形式、意味機能はいまだ不明確なものが多い。これは、資料時期がながく地域も広範にわたりその数が膨大であることによる。

2. 研究の目的

本研究では、シュメール語が実際に話されていた紀元前三千年紀後半の資料（シュメール初期王朝時代～ウル第三王朝時代）と、その後の紀元前二千年紀初頭（古バビロニア時代）に編集された文学作品を研究対象とし、両者の動詞接頭辞のあらわれかたについて比較を行った。後者の資料は、シュメール語が死語化した後の資料であるが、神話や讃歌、叙事詩などを中心とする資料群であり、資料の性質上、様々な動詞形式があらわれる。紀元前三千年紀後半の資料は、碑文や行政経済文書、法律文書がほとんどであり、動詞形式のバリエーションが限られている。このため、紀元前二千年紀以降の資料分析をあわせて行うことが不可欠である。文法テキストや語彙テキストもこの時期以降の成立であるため、当時のアッカド語話者によるシュメール語文法の理解には文学作品の資料が必要である。

本研究は、本研究以前に収集してきた動詞形式データの整理分析とともにあらたに包括的な調査を行い、シュメール語の文法でいまだ不明確な点の多い動詞接頭辞の記述を

目的とした。

3. 研究の方法

すでに公刊された資料にかんし、シュメール語動詞接頭辞の調査を行った。上述したように、紀元前三千年紀後半の資料（シュメール初期王朝時代～ウル第三王朝時代）と、紀元前二千年紀初頭（古バビロニア時代）の資料を区別し、さらに細かい時期および地域、ジャンルごとに分類し、記述を行った。

さらに、未公刊資料についてもあらたに調査を行い、データを集積するため、海外の博物館所蔵の粘土板資料調査を行った。

4. 研究成果

これまであまり時期やジャンルで区別することなく記述されてきたシュメール語動詞接頭辞について、時期別、ジャンル別に分析することによって、動詞語基がとりうる動詞接頭辞、その組み合わせの相関関係があきらかになってきた。また、紀元前三千年紀については、資料が作成された都市ごとに動詞接辞の使用にも顕著な差異がみられることもわかってきた。これは、今後のシュメール語の動詞組織研究に重要な意義をもつものである。

未公刊資料の調査については、研究期間の始めにイランでの資料の調査が許可されたことにより、当初計画より、新資料の調査に重点をおく計画に変更した。ただ、イランの政治情勢から、調査開始年度が遅れたが、現在までにデータの整理および接辞のリスト作製をおおよそ完了することができた。

紀元前三千年紀資料と紀元前二千年紀資料では、資料の種類の違いを考慮に入れても、あきらかに共起する接辞の数や用法は異なる

る。成果発表を予定していた学会発表が震災により見送られたため、現在、新たな調査データをさらに加え、より包括的な記述にかんする発表準備を進めている。

これまでの成果発表としては、シュメール語動詞および動詞接頭辞の形態論について、シュメール研究会、およびオリエント学会で口頭発表を行ったほか、英語論文2件の発表を行った。また、イラン国立博物館の所蔵資料の調査について、口頭及び論文での発表を行ったほか、イランを中心にしたメソポタミアとインダスの交流についての共著論文をハーバード大学から出版した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計5件)

- ① 森 若葉「イラン国立博物館所蔵楔形文字資料所蔵調査報告」環境変化とインダス文明(2010-11年度成果報告書)、2012、145-150、査読無
- ② Mori, W. "Plural verbal bases meaning "to go" in Sumerian," *Acta Sumerologica* 23 (in press)、査読有
- ③ Maekawa, K. and W. Mori "Dilmun, Magan, and Meluhha in Early Mesopotamian History: 2500-1600 BC, Witzel, M. and O. Toshiki (eds.) *The Cultural Relations between the Indus and Iranian Civilizations during the third Millennium BCE.* Harvard Oriental Series. Opera Minora 7. 2011, 245-269. 査読有
- ④ 森 若葉「シュメール語における動詞の方向性」前川和也編『シュメール文字文明の成立と展開』文部科学省科学研究費 特定領域研究「セム系部族社会の形成・ユーフラテス流域ビシュリ山系の総合研究2009年度全体報告書」2010、pp.17-22、査読有
- ⑤ 森 若葉「バビロニア人からみたシュメール語～最近のシュメール語研究によせて」前

川和也編『シリア・メソポタミア世界の文化接触：民族・文化・言語研究集会報告集・セム系部族社会の形成・ユーフラテス流域ビシュリ山系の総合研究』文部科学省科学研究費 特定領域研究(研究領域番号:124)、2009、pp.10-19. 査読無し

[学会発表] (計2件)

- ① 森 若葉「シュメール語動詞における方向表現の分類」第52回オリエント学会、2010年11月7日、国士舘大学
- ② 森 若葉 「シュメール語動詞の方向表現」第53回シュメール研究会、2010年5月8日、京都大学

[図書] (計4件)

- ① 森 若葉「古代における言葉の世界のかすかな痕跡：言語と世界の古代史(第3部)」ニコラス・エヴァンズ著『絶滅言語—少数言語の消滅で人類は何を失うのか』地球研ライブラリー。京都大学学術出版会(原著: Nicholas Evans, *Dying Words.* Wiley-Blackwell, Oxford, pp.279-398)、2012(近刊)
- ② 森 若葉「シュメール語」、「アッカド語」、「楔形文字」、「象形文字」、「ウガリット文字」その他の項目、佐藤武義 他 編『日本語学大事典』、朝倉書店(印刷中)
- ③ Mori, W. "Notes on Plural verbal bases in Sumerian". Kogan, L. (ed.) *Language in the ancient near east. Babel und Bibel*, 4/1. Eisenbrauns, Winona Lake, Indiana, 2010. pp.167-179.
- ④ 森 若葉「楔形文字で名前を書こう」中牧弘允・森茂岳雄・多田孝志編『学校と博物館でつくる国際理解教育』明石書店、2009、pp.220-229.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

森 若葉 (MORI WAKAHA)

総合地球環境学研究所・研究部・プロジェクト上級研究員

研究者番号：80419457

(2) 研究分担者 ()

研究者番号 :

(3) 連携研究者 ()

研究者番号 :